

作物統計調査 令和6年産水稻の収穫量（東北）

— 10a 当たり収量は583kg —

【調査結果の概要】

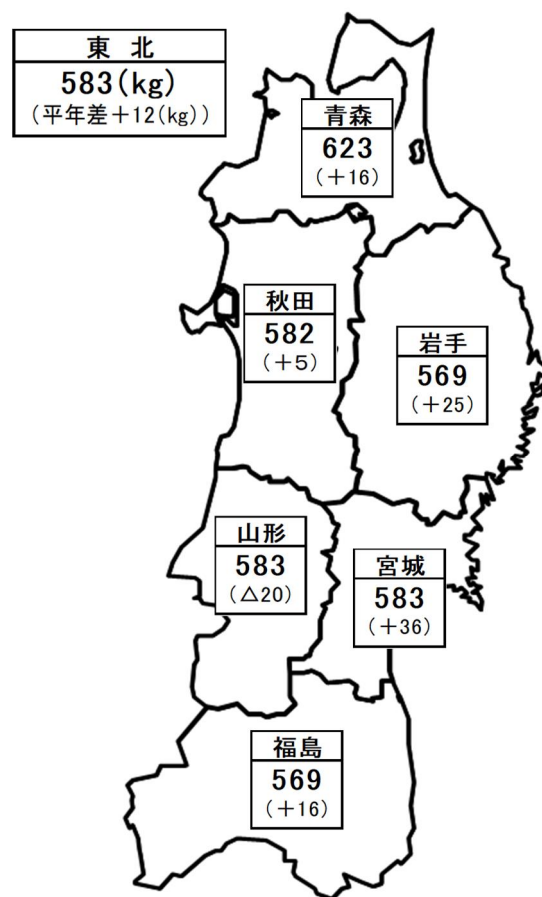
1 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は35万8,400ha（前年産に比べ9,300ha増加）となった。うち主食用作付面積は31万9,800ha（同1万600ha増加）となった。

2 水稻の10a 当たり収量は583kgとなった。
これは、一部の地域で田植え後の低温や7月の日照不足等の影響があったものの、総じて天候に恵まれたためである。

3 以上の結果、収穫量（子実用）は209万1,000t（前年産に比べ10万3,000t増加）となった。
このうち、主食用の収穫量は186万5,000t（同10万6,000t増加）となった。

4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は103となった。

図1 県別10a 当たり収量
(1.70mmのふるい目幅ベース)



注：「△」は、減少を示している。

- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。また、主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を除いた面積である（7ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（8ページの【参考2】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（東北）

単位：％

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
令和元年産	100.0	0.6	1.1	1.5	2.2	12.8	81.8
2	100.0	0.4	1.0	1.4	2.3	11.5	83.4
3	100.0	0.6	1.1	1.5	2.4	13.3	81.1
4	100.0	0.7	1.2	1.5	2.4	13.9	80.3
5	100.0	0.4	0.9	1.3	1.9	8.2	87.3
6	100.0	0.5	1.1	1.3	2.2	10.5	84.4
平 均 値	100.0	0.5	1.1	1.4	2.2	11.9	82.9
対平均差（ポイント）	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	△ 1.4	1.5

注：1 ふるい目幅別重量分布とは、それぞれのふるい目幅で選別された玄米の重量の割合である（以下同じ。）。

2 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

3 「△」は、負数又は減少を示している（以下同じ。）。

表2 ふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（東北）

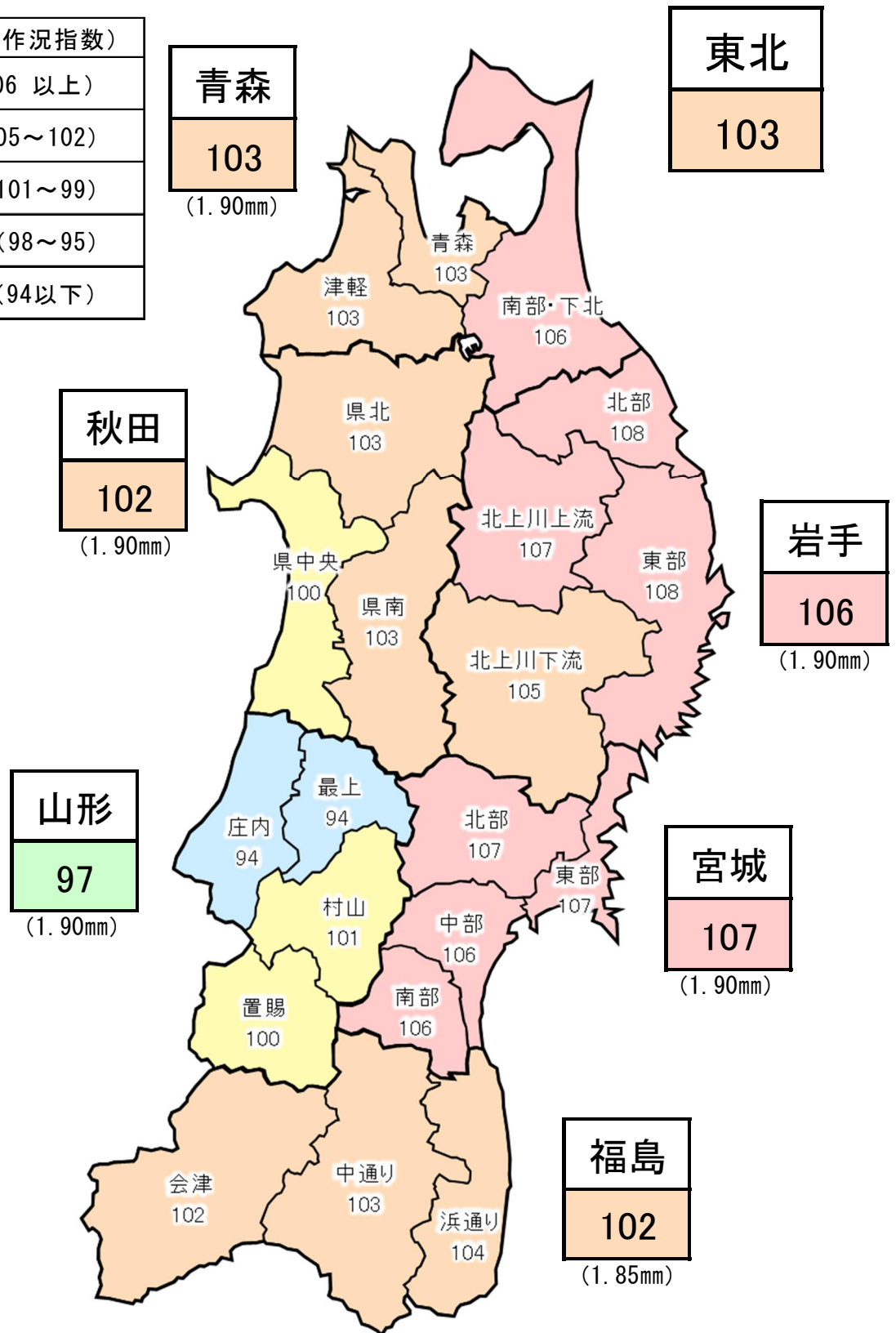
年 産		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
令和元年産	10 a 当たり収量	kg	586	582	576	567	554	479
	収穫量（子実用）	t	2,239,000	2,226,000	2,201,000	2,167,000	2,118,000	1,832,000
2	10 a 当たり収量	kg	586	584	578	570	556	489
	収穫量（子実用）	t	2,236,000	2,227,000	2,205,000	2,173,000	2,122,000	1,865,000
3	10 a 当たり収量	kg	581	578	571	562	548	471
	収穫量（子実用）	t	2,110,000	2,097,000	2,074,000	2,042,000	1,992,000	1,711,000
4	10 a 当たり収量	kg	559	555	548	540	527	449
	収穫量（子実用）	t	1,948,000	1,934,000	1,911,000	1,882,000	1,835,000	1,564,000
5	10 a 当たり収量	kg	569	567	562	554	543	497
	収穫量（子実用）	t	1,988,000	1,980,000	1,962,000	1,936,000	1,899,000	1,736,000
6	10 a 当たり収量	kg	583	580	574	566	553	492
	収穫量（子実用）	t	2,091,000	2,081,000	2,058,000	2,030,000	1,984,000	1,765,000
	対前年比	％	105	105	105	105	104	102

注：1 ふるい目幅別10 a 当たり収量とは、10 a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図2 県・作柄表示地帯別作況指数
(農家等が使用しているふるい目幅ベース)

区分	作柄の良否 (作況指数)
	良 (106 以上)
	やや良 (105~102)
	平年並み (101~99)
	やや不良 (98~95)
	不良 (94以下)



注： 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、県ごとに、過去5か年（平成30年産～令和4年産）に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県は1.90mm、福島県は1.85mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。なお、東北は、県ごとの作付面積及び収穫量を積み上げて算出した数値である。

【調査結果】

1 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は35万8,400ha（前年産に比べ9,300ha増加）となった。

また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を除いた主食用作付面積は31万9,800ha（同1万600ha増加）となった（表3参照）。

2 水稻の10a当たり収量は、583kg（平年に比べ+12kg）となった。

これは、全もみ数が、青森県及び山形県では、田植え後の低温や7月の日照不足により平年に比べやや少なくなったものの、その他の県では、田植え期以降おおむね天候に恵まれ平年並み以上となったことに加え、登熟（もみの肥大、充実）が、福島県では、倒伏の影響によりやや不良となったものの、その他の県では、出穂期以降おおむね天候に恵まれ平年並み以上となったためである。

なお、県別の10a当たり収量は、青森県は623kg、岩手県は569kg、宮城県は583kg、秋田県は582kg、山形県は583kg、福島県は569kgとなった（表3参照）。

3 以上の結果、収穫量（子実用）は209万1,000t（前年産に比べ10万3,000t増加）となった。このうち、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は186万5,000t（同10万6,000t増加）となった（表3参照）。

表3 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量			収穫量（子実用）			主 食 用 作付面積	収穫量 （主食用）	作況指数
	実数	前年産との比較		実数	平年 との比較	前年産 との比較	実数	前年産との比較				
		対差	対比		対差	対差		対差	対比			
	①			②			③＝①×②			④	⑤＝④×②	⑥
	ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t	
東 北	358,400	9,300	103	583	12	14	2,091,000	103,000	105	319,800	1,865,000	103
青 森	42,400	1,900	105	623	16	9	264,200	15,500	106	37,200	231,800	103
岩 手	45,500	300	101	569	25	18	258,900	9,800	104	43,100	245,200	106
宮 城	62,800	1,900	103	583	36	17	366,100	21,400	106	58,400	340,500	107
秋 田	84,200	1,200	101	582	5	30	490,000	31,800	107	72,200	420,200	102
山 形	60,800	△ 200	100	583	△ 20	△ 6	354,500	△ 4,800	99	52,400	305,500	97
福 島	62,700	4,300	107	569	16	8	356,800	29,200	109	56,500	321,500	102

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、青刈り面積（飼料用米・WC S用稲等を含む。）を除いた面積である。
- 2 10a当たり収量、収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、新規需要米（飼料用米を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を除いた面積である。
- 4 東北の作付面積（子実用）及び主食用作付面積は、県ごとの積上げ値と一致しない場合がある。
- 5 東北の収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）は、県ごとの積上げ値であるため、「作付面積（子実用）×10a当たり収量」及び「主食用作付面積×10a当たり収量」の計算値と一致しない場合がある。
- 6 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、県ごとに、過去5か年（平成30年産～令和4年産）に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県は1.90mm、福島県は1.85mm）で選別された玄米を基に算出した数値である。

4 令和6年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況は、当年産で水稻作況標本筆農家が最も多く使用していたふるい目幅である1.90mm以上の玄米の重量割合は94.9%と、直近5か年平均値と比べて0.1ポイント高くなった（表4参照）。

表4 令和6年産ふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
東 北	重量割合	100.0	0.5	1.1	1.3	2.2	10.5	84.4
	平 均 値	100.0	0.5	1.1	1.4	2.2	11.9	82.9
	対平均差（ポイント）	0.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	△ 1.4	1.5
青 森	重量割合	100.0	0.6	0.9	1.0	1.5	8.2	87.8
	平 均 値	100.0	0.6	0.9	1.3	1.7	9.8	85.7
	対平均差（ポイント）	0.0	0.0	0.0	△ 0.3	△ 0.2	△ 1.6	2.1
岩 手	重量割合	100.0	0.4	0.9	1.0	1.7	7.7	88.3
	平 均 値	100.0	0.6	0.9	1.2	1.8	9.7	85.8
	対平均差（ポイント）	0.0	△ 0.2	0.0	△ 0.2	△ 0.1	△ 2.0	2.5
宮 城	重量割合	100.0	0.4	1.0	1.5	2.7	13.0	81.4
	平 均 値	100.0	0.5	1.0	1.4	2.3	13.8	81.0
	対平均差（ポイント）	0.0	△ 0.1	0.0	0.1	0.4	△ 0.8	0.4
秋 田	重量割合	100.0	0.5	1.0	1.3	2.3	10.3	84.6
	平 均 値	100.0	0.6	1.2	1.7	2.5	11.5	82.5
	対平均差（ポイント）	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.2	△ 1.2	2.1
山 形	重量割合	100.0	0.5	1.0	1.3	2.4	11.9	82.9
	平 均 値	100.0	0.5	1.0	1.2	2.3	13.5	81.5
	対平均差（ポイント）	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	△ 1.6	1.4
福 島	重量割合	100.0	0.6	1.6	1.8	2.5	10.4	83.1
	平 均 値	100.0	0.5	1.3	1.6	2.5	12.4	81.7
	対平均差（ポイント）	0.0	0.1	0.3	0.2	0.0	△ 2.0	1.4

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表5 令和6年産ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

区 分		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
東 北	10a 当たり収量	kg	583	580	574	566	553	492
	収穫量（子実用）	t	2,091,000	2,081,000	2,058,000	2,030,000	1,984,000	1,765,000
青 森	10a 当たり収量	kg	623	619	614	607	598	547
	収穫量（子実用）	t	264,200	262,600	260,200	257,600	253,600	232,000
岩 手	10a 当たり収量	kg	569	567	562	556	546	502
	収穫量（子実用）	t	258,900	257,900	255,500	252,900	248,500	228,600
宮 城	10a 当たり収量	kg	583	581	575	566	550	475
	収穫量（子実用）	t	366,100	364,600	361,000	355,500	345,600	298,000
秋 田	10a 当たり収量	kg	582	579	573	566	552	492
	収穫量（子実用）	t	490,000	487,600	482,700	476,300	465,000	414,500
山 形	10a 当たり収量	kg	583	580	574	567	553	483
	収穫量（子実用）	t	354,500	352,700	349,200	344,600	336,100	293,900
福 島	10a 当たり収量	kg	569	566	556	546	532	473
	収穫量（子実用）	t	356,800	354,700	349,000	342,500	333,600	296,500

注：1 ふるい目幅別10a 当たり収量とは、東北及び各県の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。
2 ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、東北及び各県の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。したがって、東北のふるい目幅別収穫量は、各県別のふるい目幅別収穫量の積上げ値と一致しない場合がある。

表6 令和6年産水稻における農家等が使用したふるい目幅の分布
【令和6年産水稻作況標本筆農家からの聞き取り結果】

単位：％

区 分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
東 北	100.0	－	－	0.4	16.3	83.2	0.1
青 森	100.0	－	－	－	1.1	98.9	－
岩 手	100.0	－	－	0.7	2.5	96.8	－
宮 城	100.0	－	－	－	5.9	94.1	－
秋 田	100.0	－	－	0.8	15.0	83.8	0.4
山 形	100.0	－	－	0.4	14.7	84.9	－
福 島	100.0	－	－	0.8	62.4	36.8	－

注：農家等が使用したふるい目幅の分布とは、水稻作況標本筆農家が使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものである。

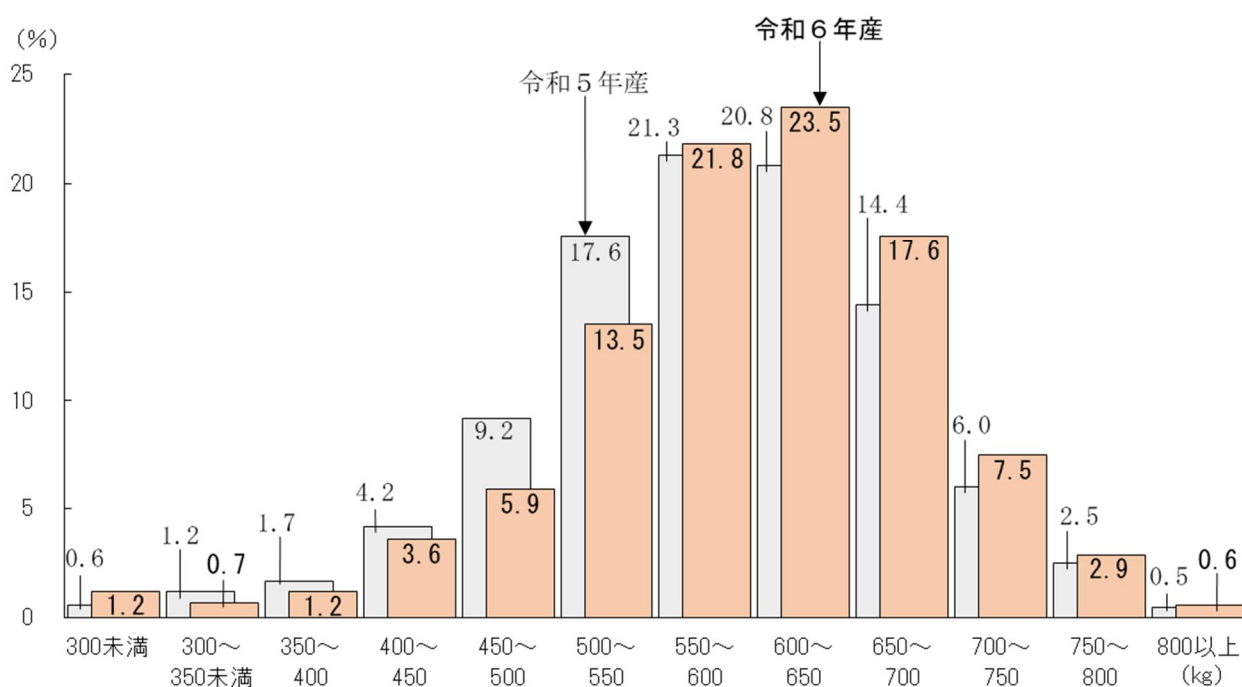
表7 令和6年産水稻作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（東北）

単位：％

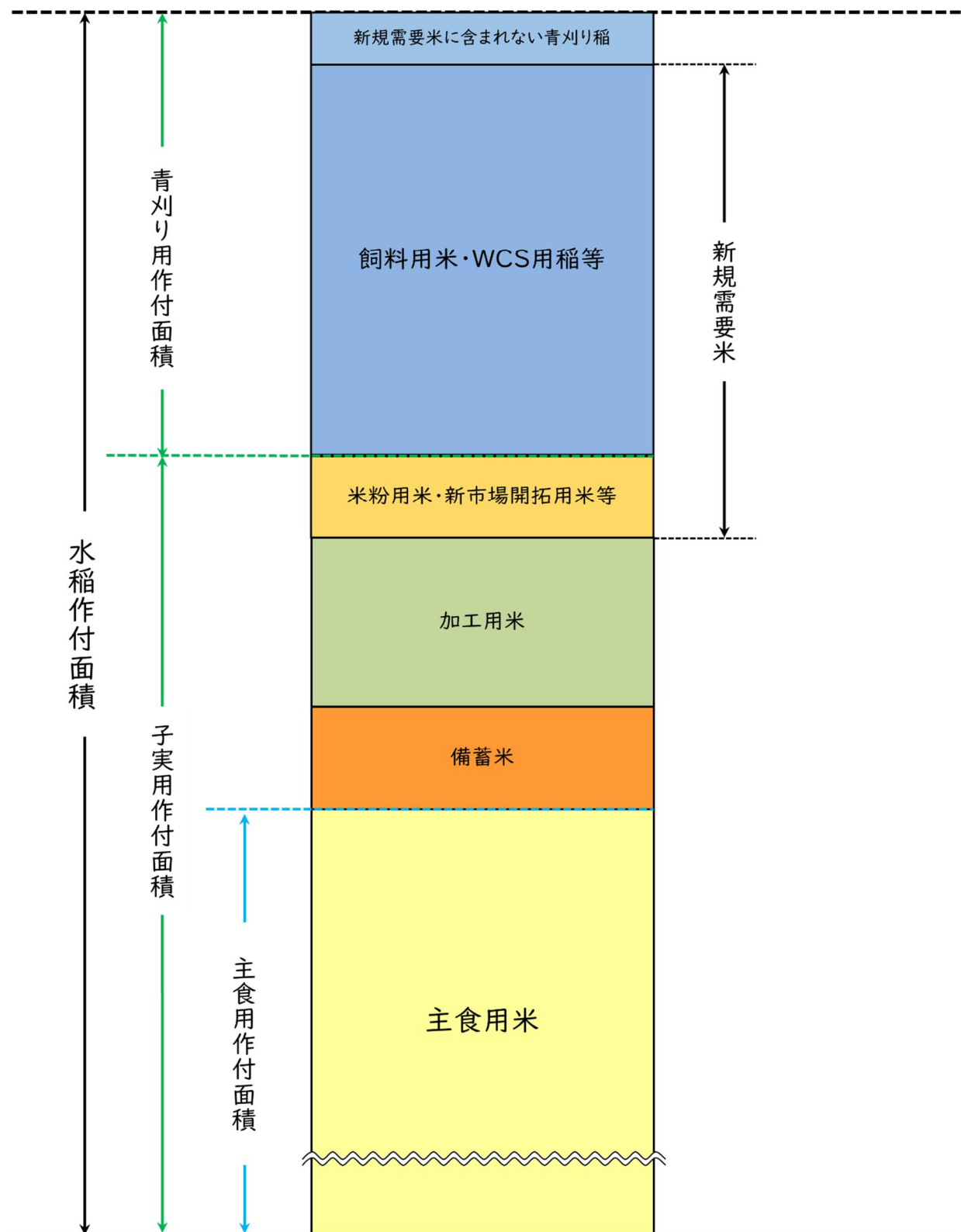
区 分	計	300kg 未満	300 ～350	350 ～400	400 ～450	450 ～500	500 ～550	550 ～600	600 ～650	650 ～700	700 ～750	750 ～800	800kg 以上
筆数割合	100.0	1.2	0.7	1.2	3.6	5.9	13.5	21.8	23.5	17.6	7.5	2.9	0.6
前 年 値	100.0	0.6	1.2	1.7	4.2	9.2	17.6	21.3	20.8	14.4	6.0	2.5	0.5
対前年差(ポイント)	0.0	0.6	△ 0.5	△ 0.5	△ 0.6	△ 3.3	△ 4.1	0.5	2.7	3.2	1.5	0.4	0.1

注：10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

図3 令和6年産水稻作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（東北）



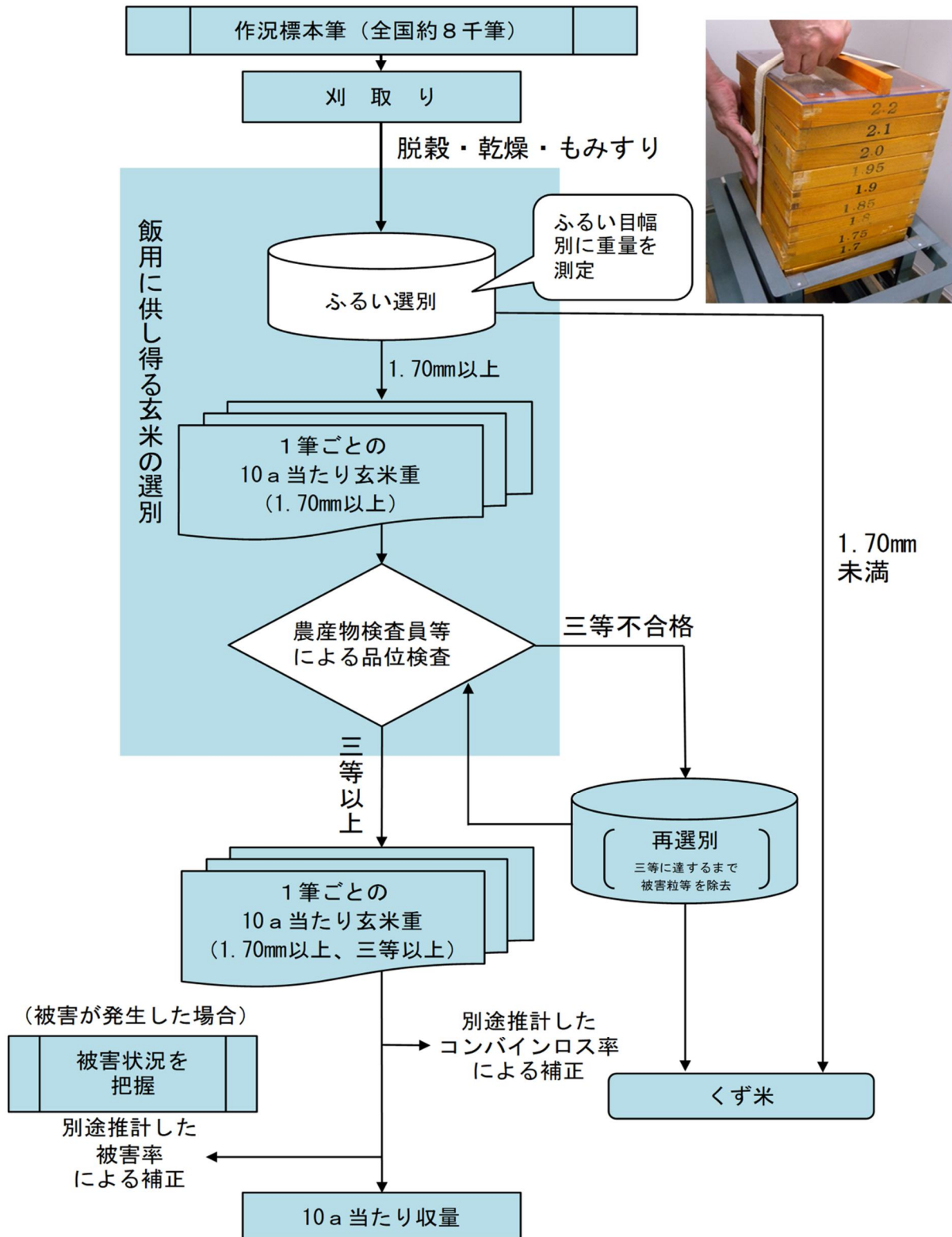
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

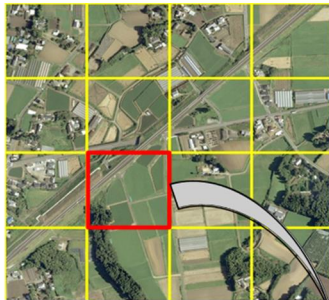


【参考 3】

作況標本^{ふで}筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約8千筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）



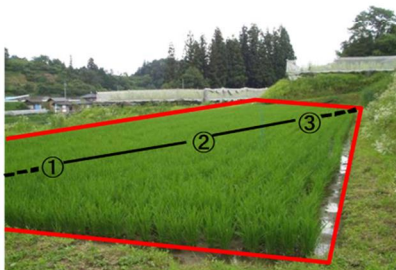
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約8千筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/kekka/sakumotu/sakkyou_kome/index3.html

【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 全国の農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/>



- ・ 全国の結果は、農林水産省ホームページの「統計情報」に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5



- ・ 本資料のうち、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和7年2月予定）します。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。
- ・ また、東北における令和6年産水稻の市町村別収穫量は、12月中旬に東北農政局ホームページに掲載する予定です。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

病害虫に関する情報：農林水産省＞組織別から探す＞消費・安全局＞病害虫の防除に関する情報

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/>

※ 上記リンクでは、病害虫の防除に関する情報として、総合防除の推進や発生予察事業による病害虫の発生予測等について掲載しています。

なお、「植物防疫年報」として公開している病害虫の発生面積は病害虫の発生予測の参考として調査を行っているもので、農作物の作付面積、収量等の調査を行っている作物統計調査とは調査目的や調査方法等が異なります。

各都道府県の生育状況等：米ネット（公益社団法人米穀安定供給確保支援機構）＞
水稻の生育状況・技術情報リンク集

<https://www.komenet.jp/linkshuu/suitolink/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

東北農政局 統計部 生産流通消費統計課

電 話：（代表）022-263-1111 内線4724、4728
（直通）022-745-9379

◎農林水産統計全般について

東北農政局 統計部 統計企画課

電 話：（代表）022-263-1111 内線4713
（直通）022-745-9378



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



5年に1度の一斉調査

2025年農林業センサス（令和7年2月1日現在）を実施します。

調査期間

令和6年12月中旬～令和7年 2月末 農林業経営体調査

令和7年 1月中旬～令和7年 2月末 農山村地域調査（市区町村調査）

令和7年10月上旬～令和7年12月末 農山村地域調査（農業集落調査）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いいたします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。



農林業センサス

農林業センサス 2025

